

にしっこ 西っ子のみなさんへ 99 6月24日

今日、6月24日は「ドレミの日」です。

1024年のこの日、イタリアの音楽教師ギドー・ダレッツォがドレミで始まる音階を定めたことに由来しています。

毎年6月24日には「洗礼者ヨハネの祭」が開催されていました。この祭に向けギドーは聖歌隊に「聖ヨハネ賛歌」の指導を行っていました。そこで、聖歌隊が歌を暗記するのに苦労しているのを見て、音楽を覚えやすくする方法を考え始めました。

「聖ヨハネ賛歌」という讚美歌は、各節が一音階ずつ上がっていくつくりになっていました。そのため、各小節の最初の音を、各節の始まりの歌詞の頭文字「ウト・レ・ミ・ファ・ソレ・ラ」で発声する練習をさせました。これがドレミの音階の始まりとなったのです。後に「ウト」が「ド」になり、「シ」が新たに加えられて、現在の7音階になりました。

音や歌を「記録」するための方法として、四線上に音符を並べる方法を編み出したのもギドーです。（現在は五線を使用。）

音楽の天才と言われる人たちは、五線譜を見ただけで頭の中に音楽が流れるのだそうです。だから楽器を演奏して音を出さなくても、楽譜を見るだけ音楽を楽しむことができますし、楽譜を見ただけで歌をうたうこともできるのです。

天才モーツァルトは、復活祭の日にのみシスティナ礼拝堂で歌われた門外不出の秘曲「ミゼレーレ」を1度聞いただけで、正しく楽譜に記したと言われます。楽譜という記録方法があったため、昔につくられた曲を現在でも演奏することができるわけです。すごい発明といえますね。

ところで、日本で昔から親しまれてきた音楽には、「ファ」と「シ」の音がないことを知っていますか。日本の音楽は、西洋音楽の長音階に当てはめたときに主音（ド）から四つ目の「ファ」と、七つ目の「シ」がない音階であることから「四七抜き音階」と言われます。

「入学式」や「卒業式」で歌う「君が代」をはじめ、日本の童謡や演歌、そして星野源さんのヒット曲「恋」やきゃりーぱみゅぱみゅさんの「つけまつける」などのJ-POPも「四七抜き音階」の曲です。

「蛍の光」はスコットランド民謡ですが、これも「四七抜き音階」の曲であるため、日本人にとって、親しみのある曲となっているのかもしれない。

日本人は、「四七抜き音階」の曲を好きになるみたいです。あなたのお気に入りの曲（歌）はどうでしょうか？ 時間がある時に調べてみてください。

ドレミの音階



ヨナ抜き音階

